

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 20 年 1 月 24 日 (2008.1.24)

【公開番号】特開 2002-218872 (P2002-218872A)

【公開日】平成 14 年 8 月 6 日 (2002.8.6)

【出願番号】特願 2001-15597 (P2001-15597)

【国際特許分類】

A 0 1 K 89/01 (2006.01)

【F I】

A 0 1 K 89/01 C

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 11 月 30 日 (2007.11.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

第 1 ベール支持部材 8 は、図 4 及び図 5 に示すように、第 1 ロータアーム 5 に固定ボルト 3 0 により揺動自在に取り付けられる円形の取付部 3 1 と、固定軸 1 0 が固定されライ  
ンローラ 1 2 が装着される円形のローラ支持部 3 2 と、取付部 3 1 とローラ支持部 3 2 と  
を連結する略均一肉厚に成型された連結部 3 3 とを有している。ローラ支持部 3 2 は、取  
付部 3 1 とねじれた位置に配置されており、そこには段付きの貫通孔 3 4 (図 2 参照) が  
形成されている。貫通孔 3 4 には、固定軸 1 0 を第 1 ベール支持部材 8 に固定するための  
固定ネジ 3 5 が貫通している。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

第 1 ベール支持部材 8 の外周部 3 6 の長手方向の稜線 3 6 a は、図 5 に示すように、固  
定軸カバー 1 1 とベール 1 3 との接合点 (段差が生じている点) である基準点 P から稜線  
3 6 a までの最大距離である第 1 距離 R 1 を半径とする球体内に配置されている。基準点  
P から稜線 3 6 a までの距離 R 1 a、R 1 b は外方に向けて第 1 距離 R 1 より徐々に短く  
なるように形成されている。すなわち、距離 R 1 b は距離 R 1 a より短くなるように形成  
されている。また、第 1 ベール支持部材 8 の外周部 3 6 の長手方向の交差する方向の稜線  
3 6 b は、図 3 に示すように、基準点 P から稜線 (上方視断面における外周部) 3 6 b ま  
での最大距離である第 2 距離 R 2 を半径とする球体内に配置されている。基準点 P から稜  
線 3 6 b までの距離 R 2 a は外方に向けて第 2 距離 R 2 より徐々に短くなるように形成さ  
れている。なお、第 2 距離 R 2 と第 1 距離 R 1 とは同一の長さである。

【手続補正 3】

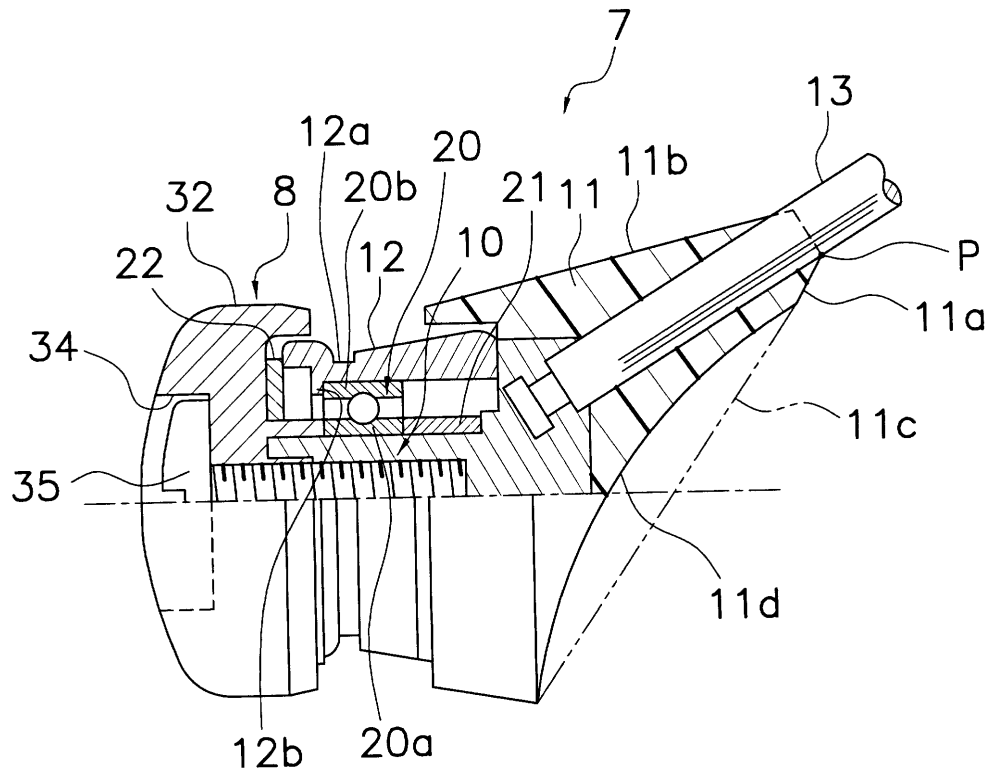
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 2 】



【 手続補正 4 】

【 補正対象書類名 】 図面

【 補正対象項目名 】 図 9

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【図 9】

